

沖縄県企画部科学技術振興課の公の施設に係る指定管理者制度運用委員会  
令和2年度 沖縄ライフサイエンス研究センター指定管理者  
モニタリング検証結果

- 1 【開催日時】 令和3年7月16日（金） 14:30～16:00
- 2 【開催場所】 沖縄ライフサイエンス研究センター 会議室
- 3 【出席者】
  - 運用委員会委員 4名
    - 1 新里 尚也 委員長（琉球大学 熱帯生物圏研究センター  
分子生命科学研究施設 准教授）
    - 2 来間 博一 委員（沖縄税理士会 山城文雄税理士事務所 税理士）
    - 3 甲斐 敦夫 委員（沖縄科学技術大学院大学 施設管理セクション  
リーダー シニアマネージャー）
    - 4 村上 明一 委員（RePHAGEN株式会社 代表取締役）Web で出席
  - 沖縄県企画部科学技術振興課 4名  
（沖縄ライフサイエンス研究センター所管課）
    - 1 金城 克也 課長（指定管理施設 担当課長）
    - 2 宮里 薫 班長（指定管理施設 担当班長）
    - 3 宮平 昭成 主査（指定管理施設 担当者）
    - 4 神田 航 主任技師（指定管理施設 副担当者）
- 4 【審議概要】
  - (1) 検証対象  
「沖縄ライフサイエンス研究センター」令和2年度指定管理者状況モニタリング結果の検証
  - (2) 検証内容
    - ア 指定管理者及び県が実施するモニタリングは適正になされているか。
    - イ 指定管理者に対する県の指導・助言は適切に行われているか。
    - ウ 利用者アンケートや苦情に対する指定管理者や県の対応は適切に行われているか。
  - (3) 検証方法
    - ア 事務局（科学技術振興課）によるモニタリング実施結果の報告
    - イ 委員からの質疑・意見
  - (4) 検証結果  
各委員からは、主に補修・修繕の状況、共用機器の状況、収支の状況等に関する質疑・意見が

あった。総論として、サービスの向上及び事業収入は堅調に推移しており、施設の管理運営は概ね適切になされているとの意見であった。

(5) 主な質疑

- ア (質問) 施設の修繕等が結構あるが、どのようなものがあるのか。また、深刻なものはないか。
- (回答) 台風の際に横風の影響で雨漏りがあった。したがって、屋根のシーリング張り替え及び外部から内部へ引き込む配線及び配電盤のパテ詰め替えを行った。
- (意見) 入居者の中には、高額な機器、代替のきかないサンプルを所有しているところもあるので、細かくチェックして修繕してほしい。
- イ (質問) 県が負担すべき修繕と指定管理者が負担すべき修繕は、どのように線引きされているか。
- (回答) 50万円以上の修繕は県が行い、50万円未満の修繕は指定管理者が行うこととなっている。
- (意見) 公共施設は、丁寧に維持管理されていれば長寿命化されるので、施設の寿命は指定管理者の維持管理に影響されると考える。これをモニタリングの評価に入れてもよいと思う。
- ウ (質問) 令和元年8月から入居率100%で、令和2年度から丸一年入居率100%と聞いている。令和2年度と前年度を比較すると収入は上がっているが、収支は下がっている。収支が下がったのは、入居率が上がったことにより人件費が増となったためとなっているが、今後この人件費が続くのか、または、年々増加していくのか。
- (回答) 人件費増加の要因は、次期指定管理対応業務のため、過去5年間のデータの整理など、膨大な資料を作成していただいたことによる。したがって、令和2年度が平準化された人件費ではないと考える。なお、今年度から運営するバイオ・サイト・キャピタル株式会社の子会社イノベーションサポート沖縄株式会社は、費用計上を整理しており、人件費その他費用についてはスリムになっていくと想定している。
- また、これまで指定管理者が行っていた業務を切り離して、入居者支援等業務の一部を別途委託している。
- (意見) 健全な財務体質にすることは大事だが、入居者に対するサービスの低下が見られるようなら、改善していただきたい。
- エ (質問) 入居者からの自主事業に係るサービスの質の評価の改善要望で、動物試験の委託が挙がっていたが、指定管理者で対応可能か。
- (回答) 指定管理者では、従業員が足りず厳しいと考える。
- オ (意見) 共用機器を所有している沖縄バイオ産業振興センターや沖縄健康バイオテクノロジー

研究開発センター等を集約して、機器センターのようなものを設置し管理できないものか。

- カ (意見) 沖縄ライフサイエンス研究センターでは感染実験ができないが、今後、数年かけて体制を整え感染実験ができるようになるとうい。
- キ (意見) 入居者間の横の繋がりを深めるような対策を講じてほしい。
- ク (意見) 県民に対し、沖縄ライフサイエンス研究センターの活用状況について、もっと分かりやすくアピールしてもらいたい。
- ケ (質問) モニタリングの検証について、入居者全員が知る機会を作れないか。  
(回答) 県ホームページで結果について公表しているが、掲載後、指定管理者を通して当センターの掲示板で公表した旨周知していく。
- コ (質問) 遺伝子組換えの対応は今どうなっているか。  
(回答) P2レベルの施設として整備はしているが、実績はない。
- サ (質問) 沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターや沖縄バイオ産業振興センターは、入居後会社を大きくし移転してもらうための支援や、長期間入居すると利用料金を上げる等して移転を促している。当センターは基礎的な研究を行う施設なので、それに馴染まないのか。  
(回答) 入居者は基礎研究を行っているので、出ていきにくいとは思いますが、次のステップに進める支援をして当センターを卒業、そして、新規入居という循環型のセンターにしたいと考えている。
- シ (質問) 共用機器の更新について、定期的に行われているのか。県としての機器更新の方針はどのようになっているか。また、かなりの予算になるのか。  
(回答) 共用機器の更新は、建物を作る際などに行うが、陳腐化しているため、そろそろ行おうと考えている。沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターの例でいうと10億円ぐらいかかる。  
(意見) 入居者のニーズに合うよう、こまめに変えていければいいが、共用機器を更新する際は、平等に入居者の意見を聞いて機器を選定し、使い勝手のよい施設になるよう配慮してほしい。